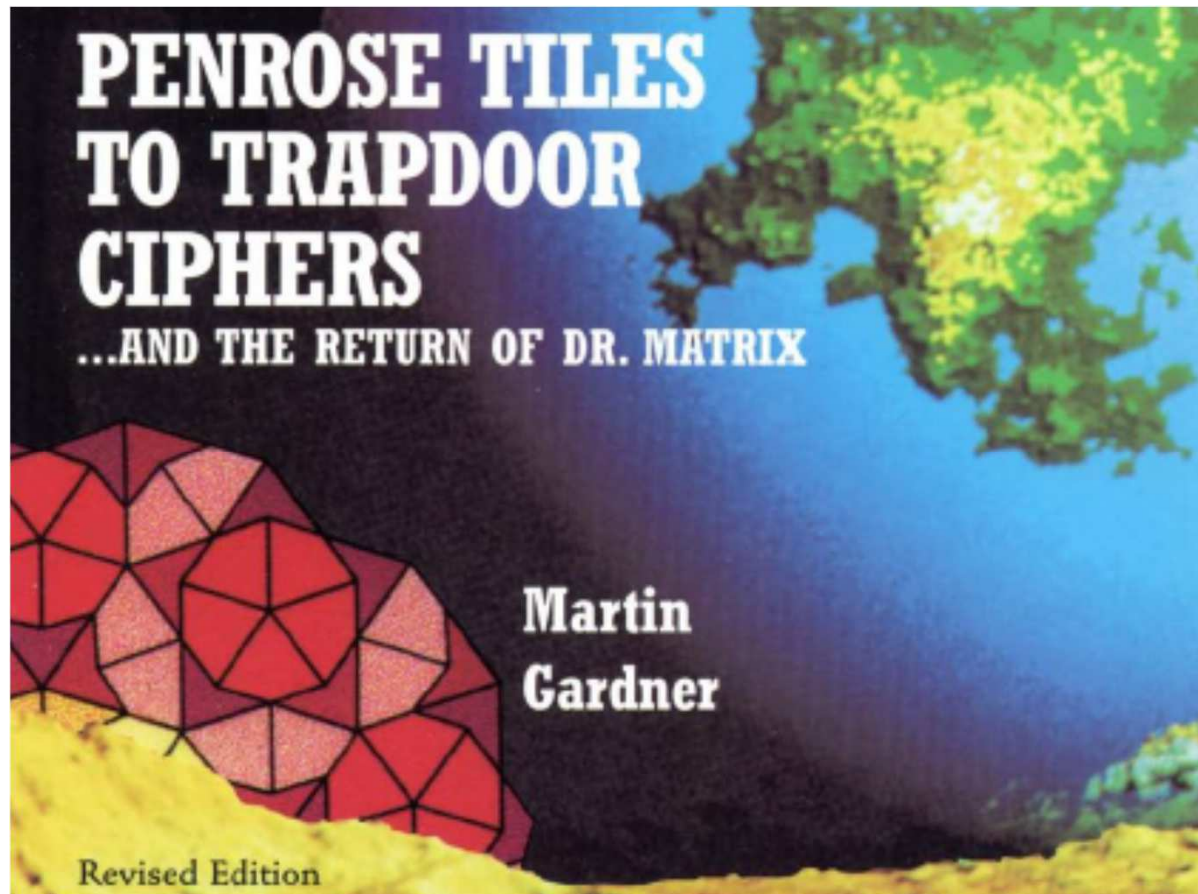


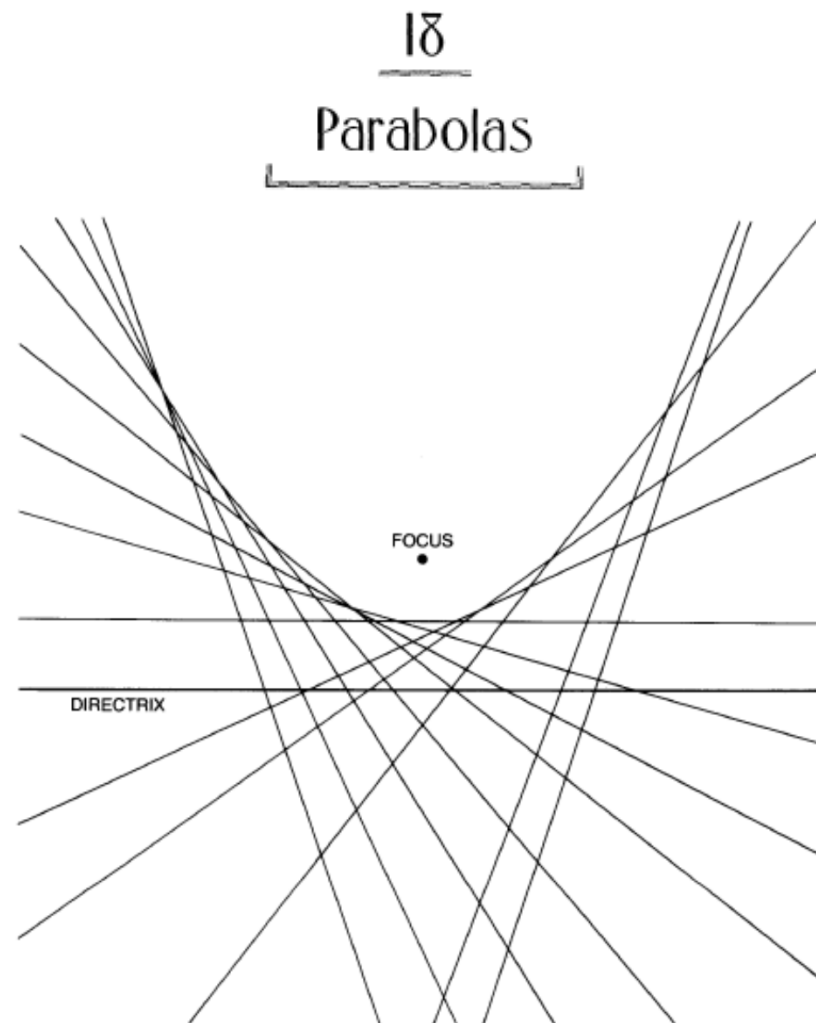
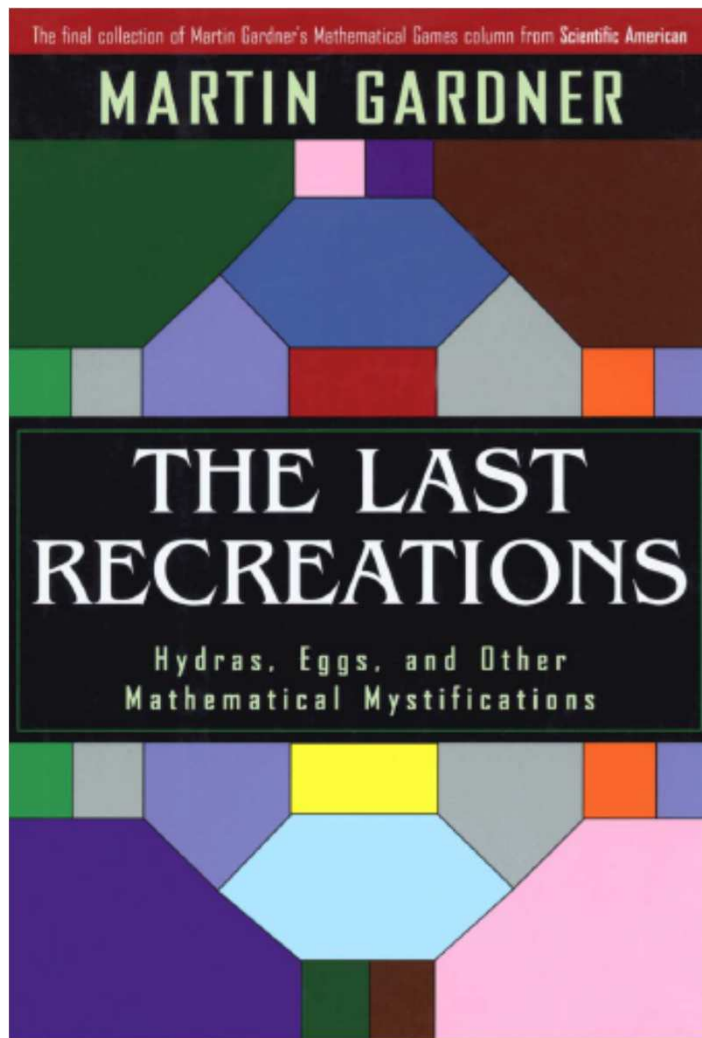
Martin Gardner

(21/10/1914-22/05/2010)



CHAPTER **15**
Hyperbolas



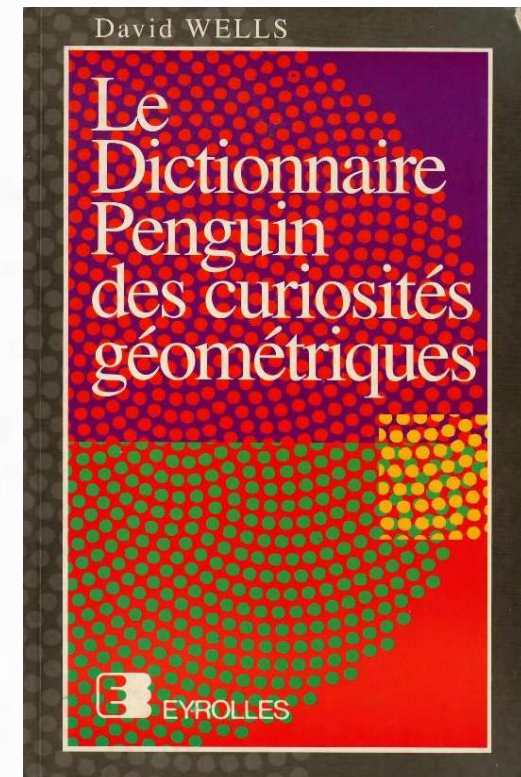
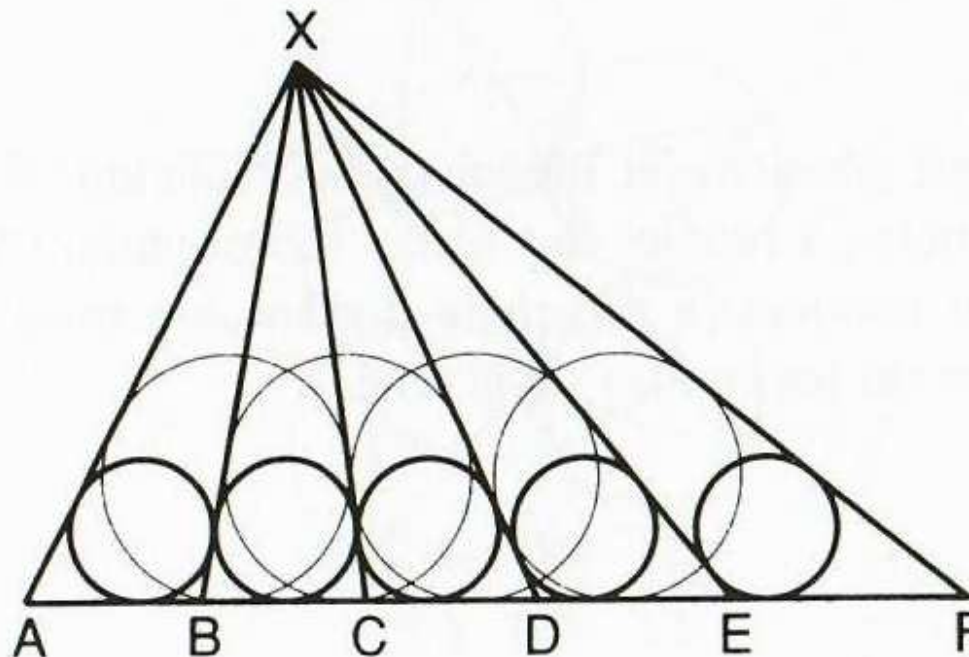




cercles inscrits égaux, théorème des

Les rayons partant de X sont choisis de sorte que les triangles XAB , XBC , XCD , etc. aient tous des cercles inscrits identiques. Par conséquent, les triangles XAC , XBB , etc. ont également des cercles inscrits identiques.

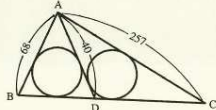
De façon similaire, les triangles XAD , XBE , etc. auront également des cercles inscrits égaux, tout comme les triangles XAE et XBF .



その1

問題 図のように、三角形 ABC において、AD を引き、その中へ2つの等円を入れる。

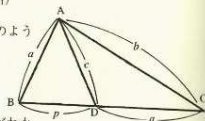
辺 AB = 68 寸、辺 AC = 257 寸、辺 AD = 40 寸であるとき、辺 BC の長さを求めよ。



現代的解に入る前に、この問題の術文に注目してみる。答に至る式は、数学的に表すと次のようになる。

$$\text{大斜} = \sqrt{(\text{中斜} + \text{小斜})^2 - 4c^2} \quad (\text{界斜})^2$$

これを、問題の図の記号で表わすと次のようになる。



$$BC = \sqrt{(a+b)^2 - 4c^2}$$

なかなかきれいな式で表わせることがわかる。

実はこの問題を解くため、ステュアートの定理を用いると容易に解決できる。ステュアートの定理という耳なれない定理ではあるが、図形問題を解くときに知っているのと大きな手がかりになるので、ここではステュアートの定理を取り上げて解説する。

ステュアートの定理

三角形 ABC において、辺 BC を $m:n$ に内分する点を D とするとき、

$$AB^2 + AC^2 = mAD^2 + nBD^2 + mCD^2 \quad (\text{①})$$

$$\text{②} \times m \text{ より } mAC^2 = mAD^2 + mCD^2 + 2mCD \cdot DE \quad (\text{⑤})$$

ゆえに、①+⑤ より

$$nAB^2 + mAC^2 = (m+n)AD^2 + nBD^2 + mCD^2$$

証明終わる

点 E が、線分 CD 上または、C の方の延長上にある場合も同様に証明できる。ステュアートの定理を学校の授業で学ぶ機会は少ないが、点 D が辺 BC の中心になる場合はよく取り上げられる。上のステュアートの定理で、 $m:n=1:1$ とすればよいから、 $CD=BD$ である。 $m=n=1$ を代入すると、

$$AB^2 + AC^2 = 2AD^2 + BD^2 + CD^2 = 2(AD^2 + BD^2)$$

が成り立つ。これを中線定理 (パップスの定理) という。

さて、ステュアートの定理を使って、現代的解を完成させよう。

本問では、点 D が辺 BC をどのような比に内分する点であるか考えればよい。

現代的解

△ABC について、辺 BC を $m:n$ に内分する点を D とする。また、 $AB=a$ 、 $AC=b$ 、 $AD=c$ とする。

△ABD と △ACD の面積比は、高さが共通であるから、

$$\triangle ABD : \triangle ACD = BD : CD = m : n$$

また、二つの三角形の内接円の半径は等しいから、その面積比は、周の長さの比に等しい。すなわち

$$\triangle ABD : \triangle ACD = (a+c+BD) : (b+c+CD)$$

よって、

$$m:n = BD : CD = (a+c+BD) : (b+c+CD) = (a+c) : (b+c)$$

次の式が成り立つ。

$$nAB^2 + mAC^2 = (m+n)AD^2 + nBD^2 + mCD^2$$

これを、ステュアートの定理という。

ステュアートの定理を証明してみよう。

【証明】

頂点 A から辺 BC へ垂線を下ろし、辺 BC との交点を E とする (ここでは、点 E は、図のように、線分 BD 上にある場合について考える)。

△ABE について、三平方の定理より

$$\begin{aligned} AB^2 &= AE^2 + BE^2 \\ &= AE^2 + (BD - DE)^2 \\ &= AE^2 + BD^2 - 2BD \cdot DE + DE^2 \\ &= (AE^2 + DE^2) + BD^2 - 2BD \cdot DE \\ &= AD^2 + BD^2 - 2BD \cdot DE \quad \text{①} \end{aligned}$$

(∵ 直角三角形 ADE について、三平方の定理を使う)

△ACE について、同様に三平方の定理より

$$\begin{aligned} AC^2 &= AE^2 + CE^2 \\ &= AE^2 + (CD + DE)^2 \\ &= AE^2 + CD^2 + 2CD \cdot DE + DE^2 \\ &= (AE^2 + DE^2) + CD^2 + 2CD \cdot DE \\ &= AD^2 + CD^2 + 2CD \cdot DE \quad \text{②} \end{aligned}$$

ここで、点 D は辺 BC を $m:n$ に内分する点であることに気をつけると、

$$BD : CD = m : n$$

よって、 $nBD = mCD$ …… ③

であるから、

$$\text{①} \times n \text{ より } nAB^2 = nAD^2 + nBD^2 - 2nBD \cdot DE$$

である。

ここで、ステュアートの定理で、 $BD = \frac{m}{m+n}BC$ 、 $CD = \frac{n}{m+n}BC$

注意すると、

$$\begin{aligned} nAB^2 + mAC^2 &= (m+n)AD^2 + n\left(\frac{m}{m+n}BC\right)^2 + m\left(\frac{n}{m+n}BC\right)^2 \\ &= (m+n)AD^2 + \frac{m^2n + mn^2}{(m+n)^2}BC^2 \\ &= (m+n)AD^2 + \frac{mn(m+n)}{(m+n)^2}BC^2 \\ &= (m+n)AD^2 + \frac{mn}{m+n}BC^2 \end{aligned}$$

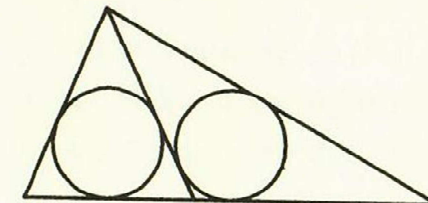
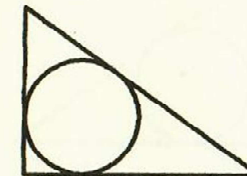
よって、 $BC^2 = \frac{m+n}{m}AB^2 + \frac{m+n}{n}AC^2 - \frac{(m+n)^2}{mn}AD^2$

$AB=a$ 、 $AC=b$ 、 $AD=c$ 、 $m=a+c$ 、 $n=b+c$ を代入すると、

$$\begin{aligned} BC^2 &= \frac{a+b+2c}{a+c} \times a^2 + \frac{a+b+2c}{b+c} \times b^2 - \frac{(a+b+2c)^2}{(a+c)(b+c)} c^2 \\ &= (a+b+2c) \left\{ \frac{(b+c)a^2}{(a+c)(b+c)} + \frac{(a+c)b^2}{(a+c)(b+c)} - \frac{(a+b+2c)^2}{(a+c)(b+c)} \right\} \\ &= \frac{(a+b+2c)}{(a+c)(b+c)} \{ (b+c)a^2 + (a+c)b^2 - (a+b+2c)c^2 \} \\ &= \frac{(a+b+2c)}{(a+c)(b+c)} \{ (b+c)a^2 + (a+c)b^2 - (a+c)c^2 - (b+c)c^2 \} \\ &= \frac{(a+b+2c)}{(a+c)(b+c)} \{ (a+c)(b^2+c^2) + (b+c)(a^2-c^2) \} \end{aligned}$$

その2

その1



奉懸算題

今有如图三斜之内隔界斜各二円各径
中斜二百五十七寸小斜六十八寸界斜四十
零寸問大斜幾何

答曰大斜三百一十五寸

術曰置中斜加小斜自乘之而得数之内減界
斜巾平方開之得大斜合問

又有釣股之内各巾云釣股之和一十七寸

又云釣股内径各再乘巾相併為実以弦内径

之差除之得数二百一十三寸問弦若干

答曰弦一十三寸

術曰置只云数自乘之而三之内減又云数

平方開之商以減只云数

右 神谷直繩

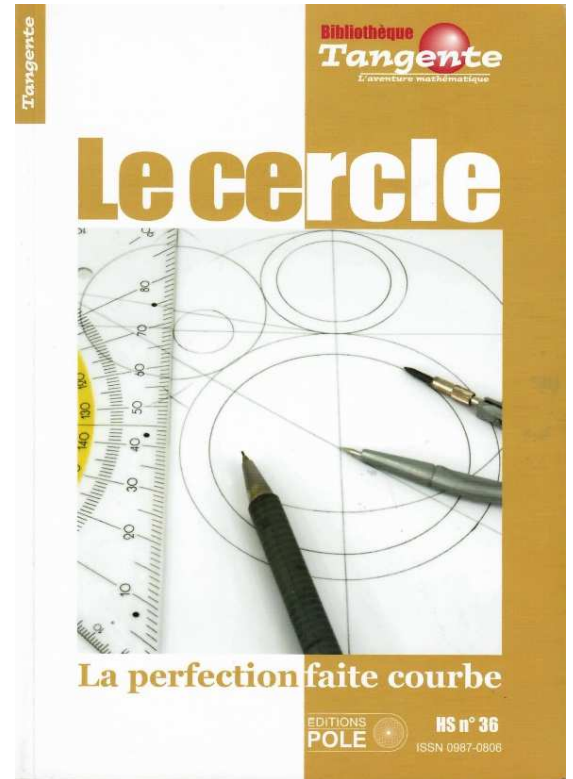
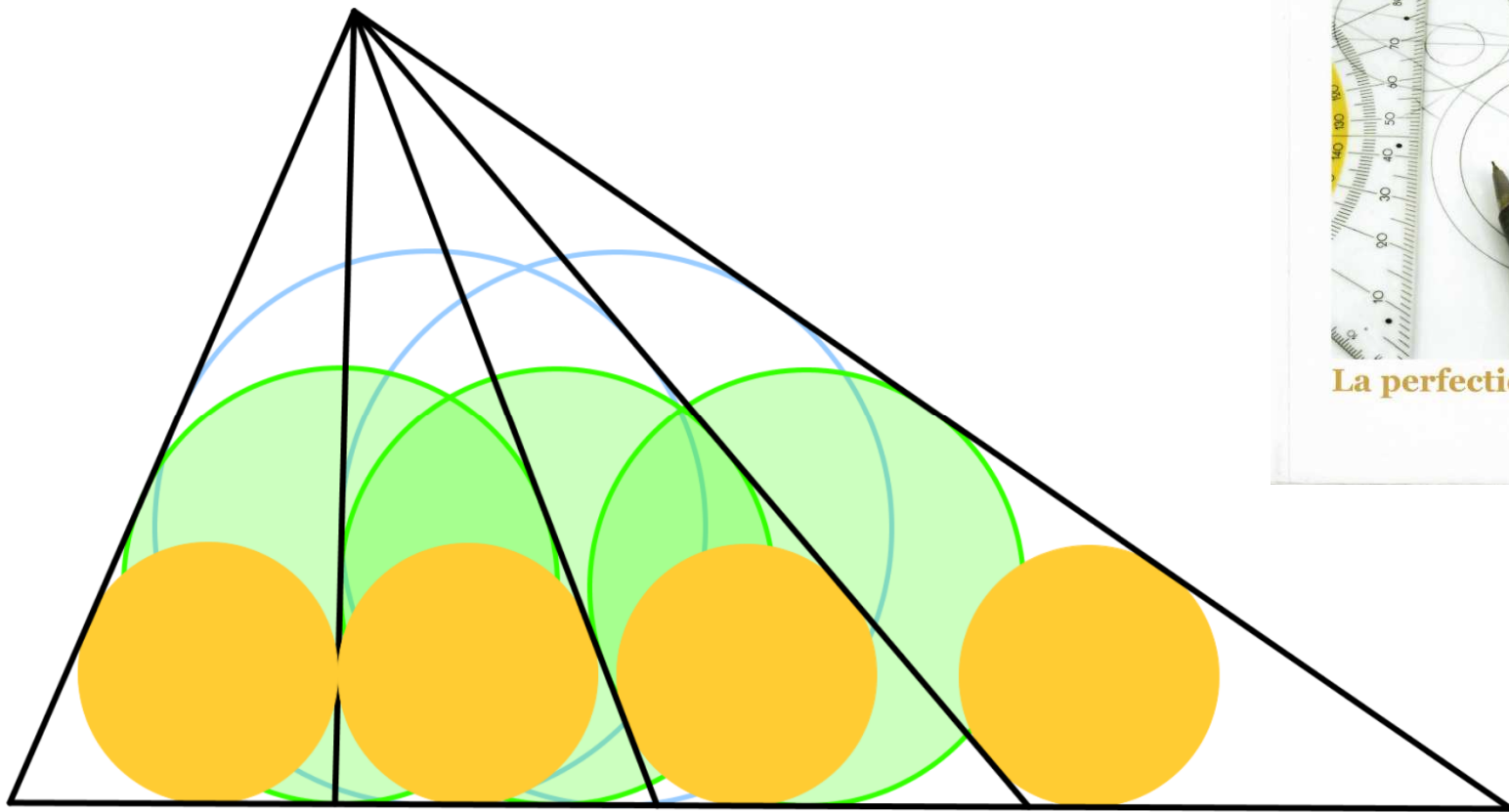
$$\begin{aligned} &= \frac{(a+b+2c)}{(a+c)(b+c)} \{ (a+c)(b+c)(b-c) + (b+c)(a+c)(a-c) \} \\ &= (a+b+2c)(a+b-2c) \\ &= (a+b)^2 - 4c^2 \end{aligned}$$

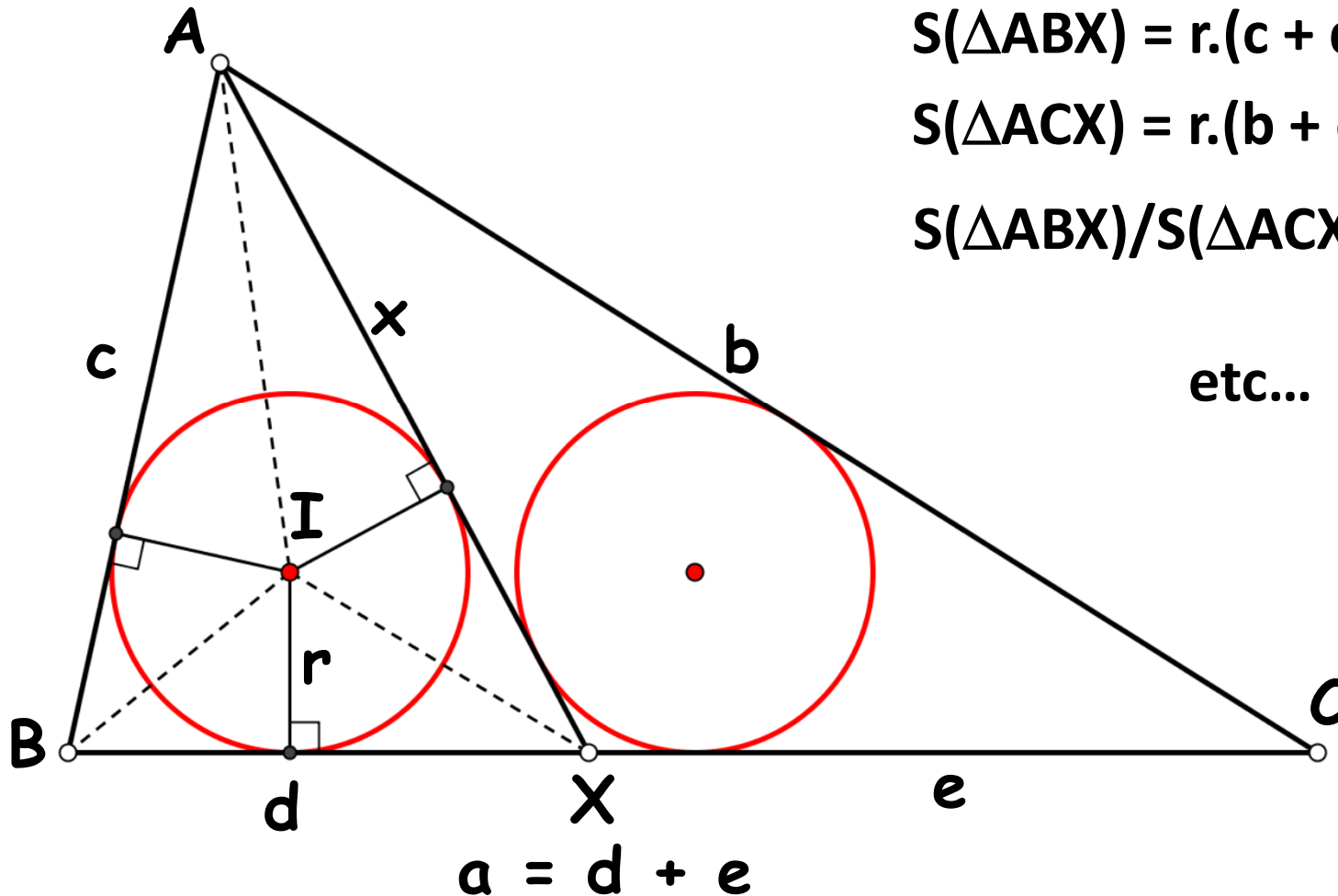
ゆえに、 $BC = \sqrt{(a+b)^2 - 4c^2}$ ← 術文に一致する。

この式に、 $a=68$ 寸、 $b=257$ 寸、 $c=40$ 寸 を代入すると、

$$BC = \sqrt{(68+257)^2 - 4 \times 40^2} = 315 \text{ (寸)} \quad \text{…… (答)}$$

を得る。これは答に一致している。





On suit le calcul = LOURD!



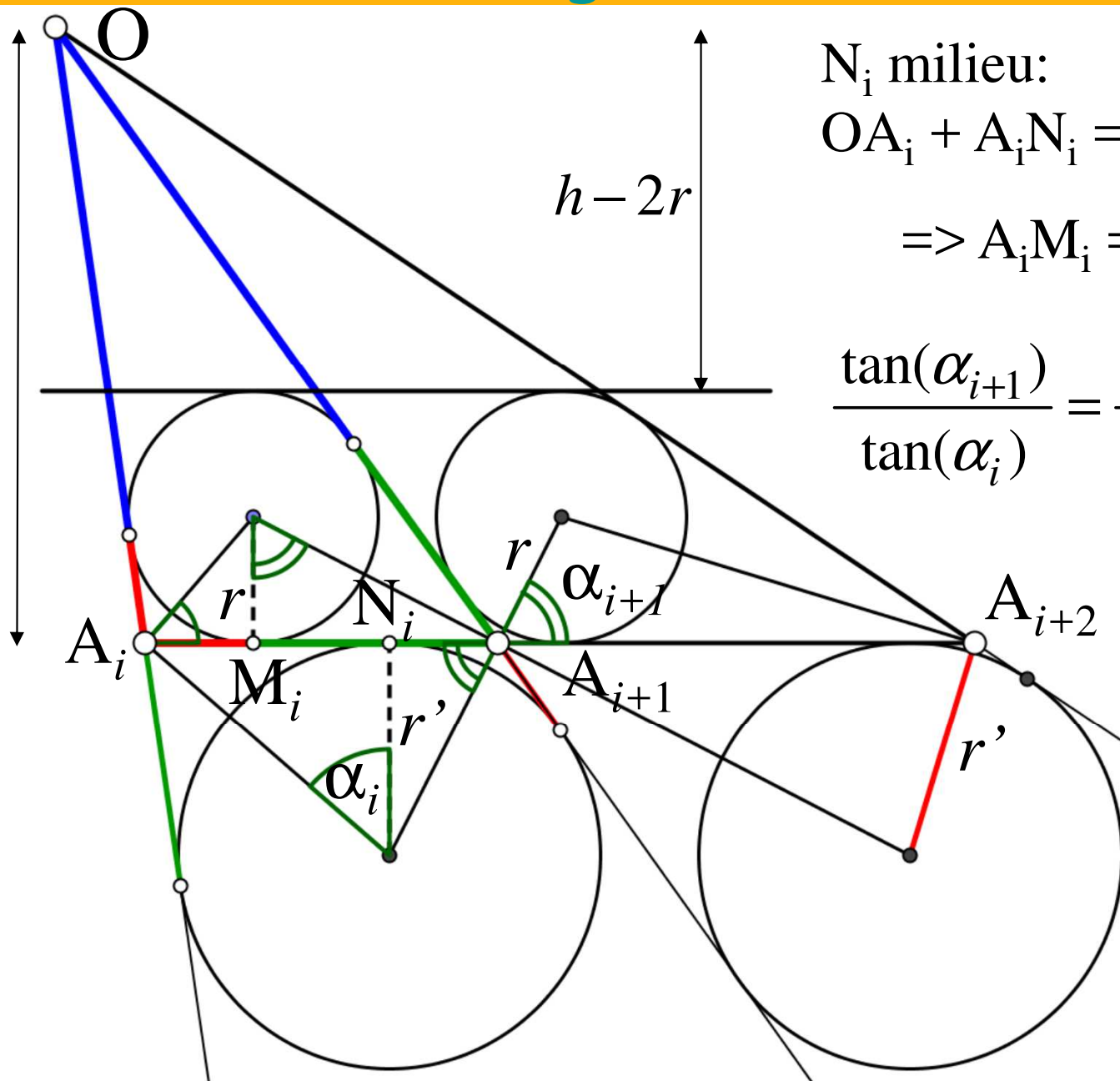


Salon CIJM
2017



Cercles inscrits égaux

Solution de JMSM



N_i milieu:

$$OA_i + A_i N_i = OA_{i+1} + A_{i+1} M_i$$

$$\Rightarrow A_i M_i = A_{i+1} N_i$$

$$\frac{\tan(\alpha_{i+1})}{\tan(\alpha_i)} = \frac{r'}{A_{i+1} N_i} \cdot \frac{A_i M_i}{r} = \rho$$

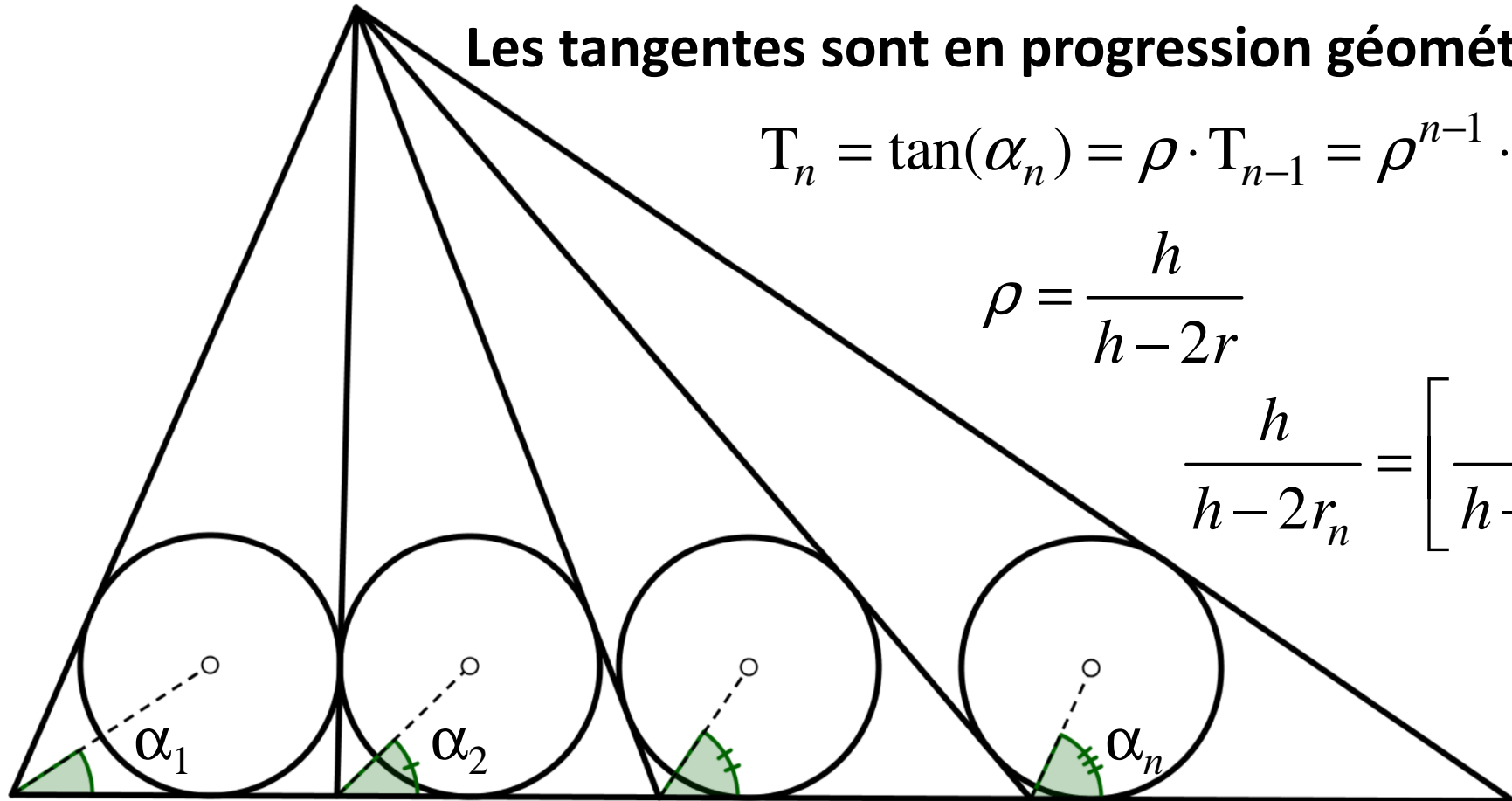
$$\rho = \frac{h}{h-2r} = \frac{r'}{r}$$

Les tangentes sont en progression géométrique:

$$T_n = \tan(\alpha_n) = \rho \cdot T_{n-1} = \rho^{n-1} \cdot T_1$$

$$\rho = \frac{h}{h-2r}$$

$$\frac{h}{h-2r_n} = \left[\frac{h}{h-2r_1} \right]^n$$



En prenant un terme sur k d'une suite géométrique de rapport ρ , on obtient une suite géométrique de rapport ρ^k :

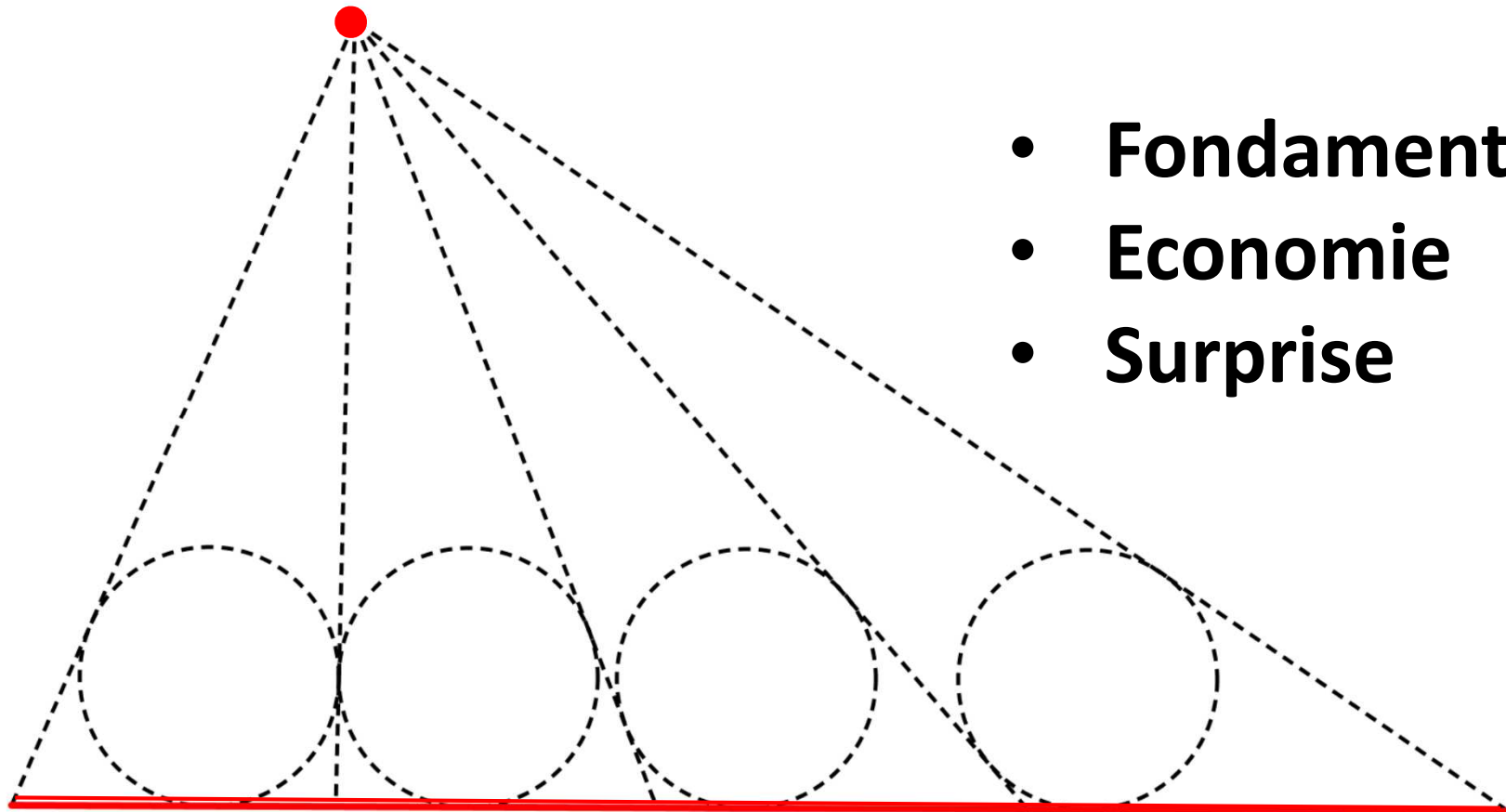
$$T_{kn+1} = \rho^k \cdot T_{k(n-1)+1} = \rho^{kn} \cdot T_1$$



« La beauté est le premier critère : il n'y a pas de place permanente dans le monde pour de laides mathématiques. »

G. Hardy

- **Fondamental**
- **Economie**
- **Surprise**



Aller à l'essentiel





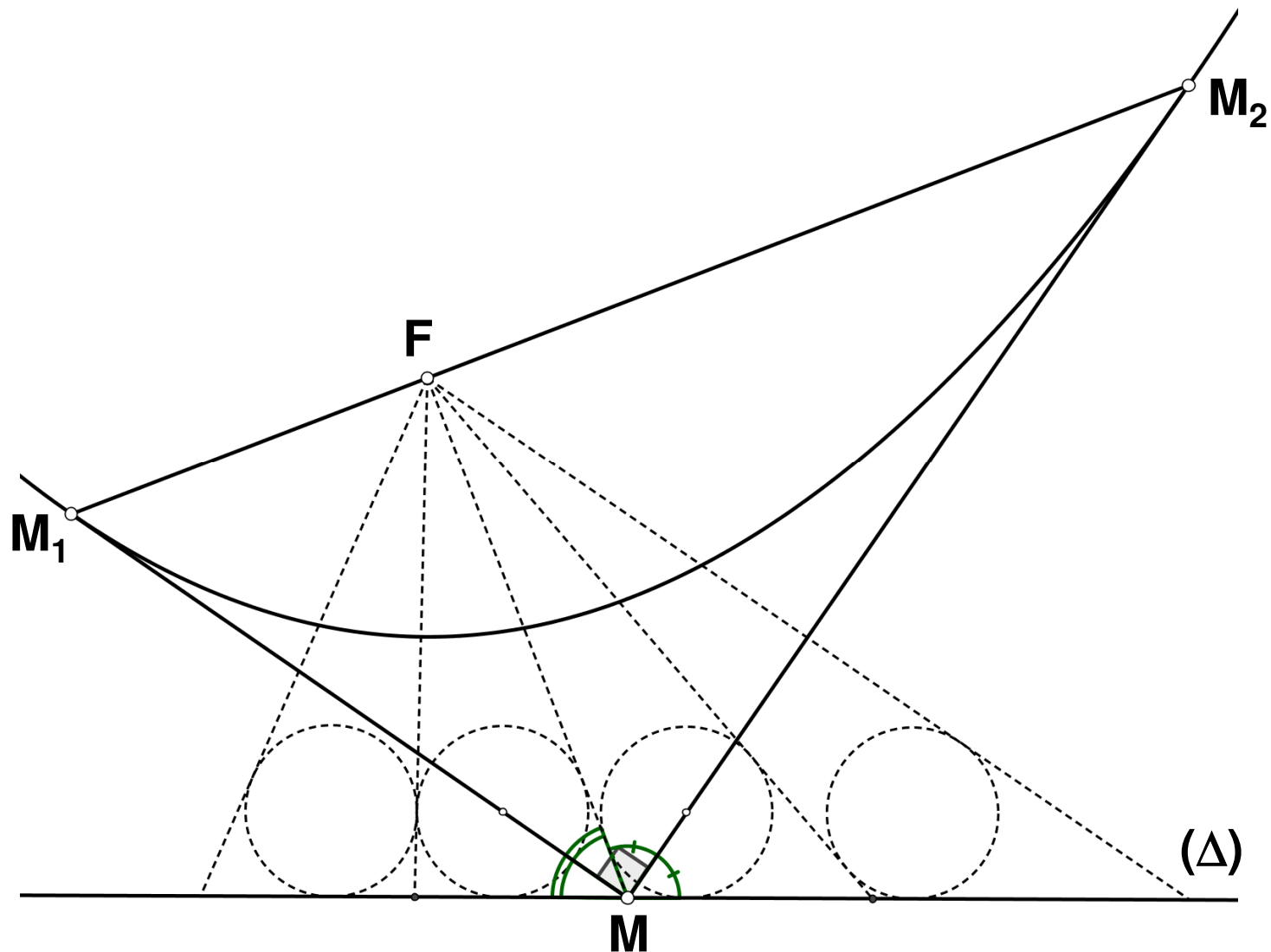
● *foyer*



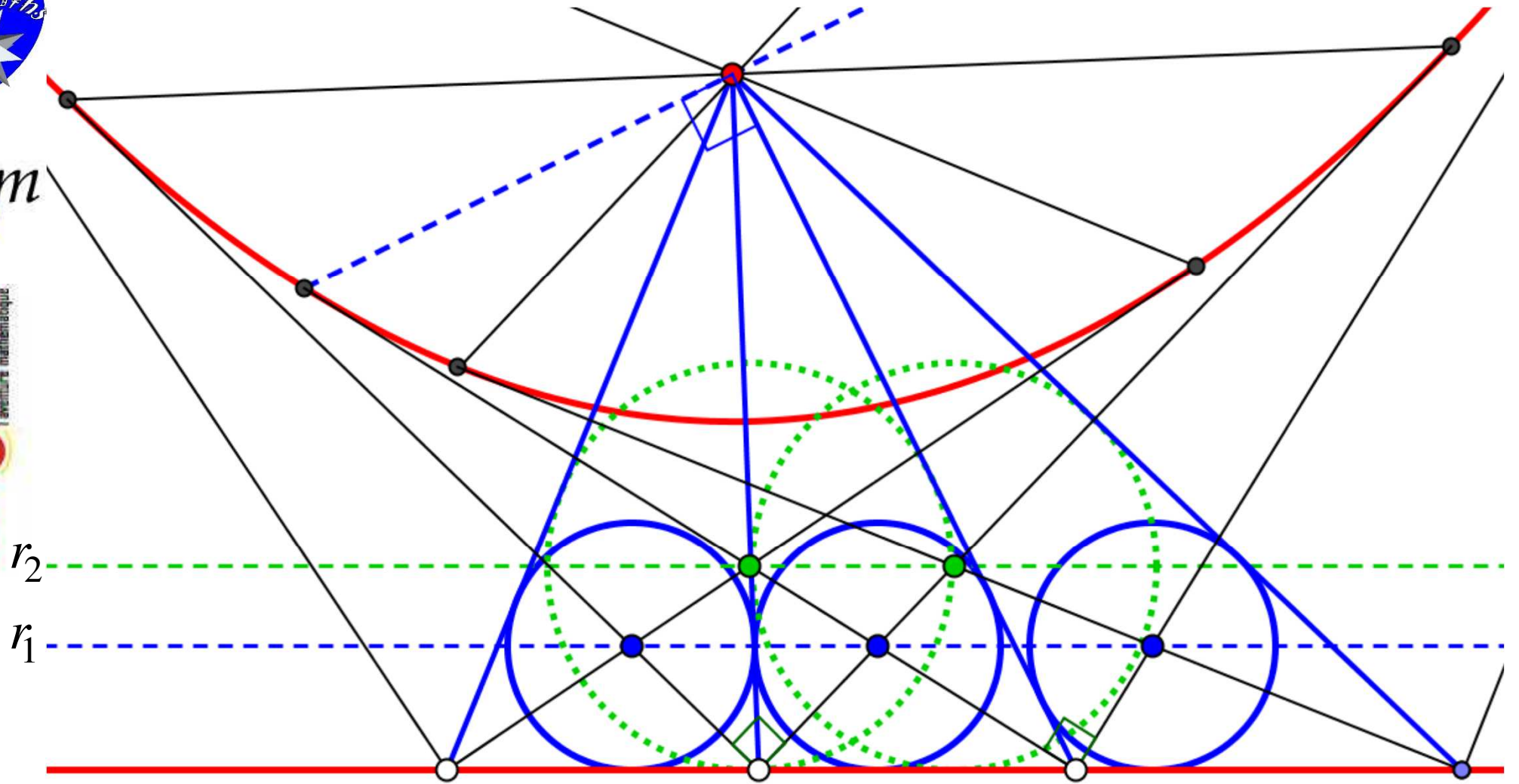
1 point + 1 droite = 1 parabole



directrice



Directrice (Δ) = courbe orthoptrique de la parabole





tangente
l'aventure mathématique

Jérusalem, à thème attique

Je rusa les Mathématiques

